

果樹病虫害発生状況（4月中旬）

【モモ】

1 モモせん孔細菌病

4月中旬の巡回調査（県北地方、品種「あかつき」）において、春型枝病斑の発生は確認されませんでした。参考調査ほ場の「ゆうぞら」や他地域のほ場では発生が確認されています。

春型枝病斑は見つけしだい、せん除し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。また、薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意しましょう（令和6年4月24日付け病虫害防除情報「モモせん孔細菌病」参照）。

2 ハマキムシ類

越冬世代幼虫の花らい被害は、確認されませんでした。

3 ナシマルカイガラムシ

県北地方の複数のモモほ場において、ナシマルカイガラムシの寄生が確認されています。本種はシロカイガラムシ類と同様に、幹に寄生し樹液を吸汁するので、樹勢が衰え結果枝や芽の枯死が発生します。

シロカイガラムシ類は灰白色のカイガラを目安に発生が確認できますが、ナシマルカイガラムシは黒色～灰白色をしており、発生を見逃しやすいため、注意しましょう（図1、図2）。

発生部位は見つけ次第、ワイヤーブラシなどで丁寧にこすり落としましょう。



図1 枝への寄生状況（福島県植物防疫協会提供）

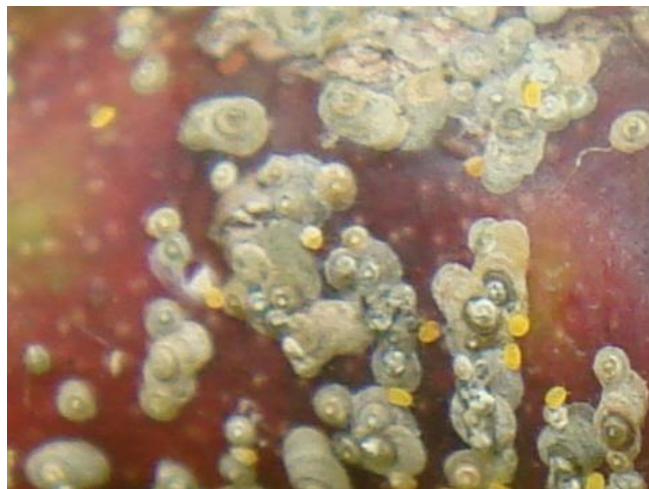


図2 雌成虫のカイ殻とふ化幼虫（福島県植物防疫協会提供）

【リンゴ】

1 リンゴうどんこ病

花そう葉での発生は、確認されませんでした。

2 リンゴハダニ

越冬量調査（令和5年12月）において、越冬卵が確認されたほ場の割合は平年よりやや少ない状況でした（図1）。

越冬卵密度の高い園地では、発生密度に注意し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を散布しましょう。

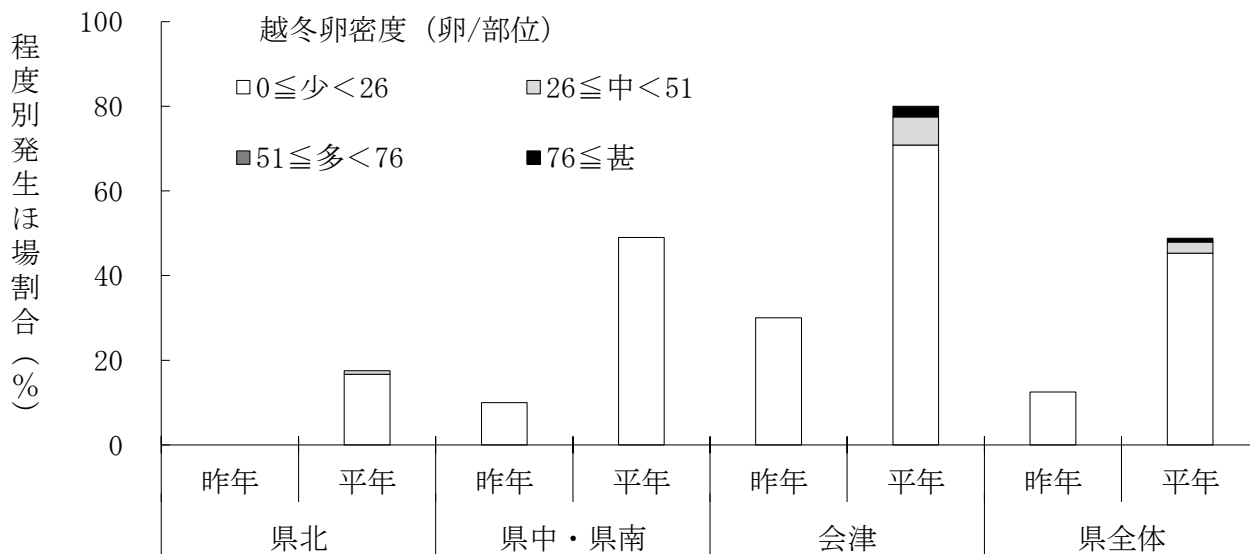


図1 リンゴハダニ（越冬卵）の発生状況（令和5年12月）

3 ハマキムシ類

越冬世代幼虫の花そう被害は、確認されませんでした。

【ナシ】

1 ナシ黒星病

越冬量調査（令和6年2月）において、鱗片における越冬病斑の発生は確認されませんでした。また、4月中旬の花そう基部病斑の発生ほ場割合は、中通りで平年並、浜通りはやや低い状況でした（図2）。

芽基部病斑は、鱗片が脱落せず付着したままの花そうを発見の目安とし、見つけしだい除去し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。また、薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意しましょう。

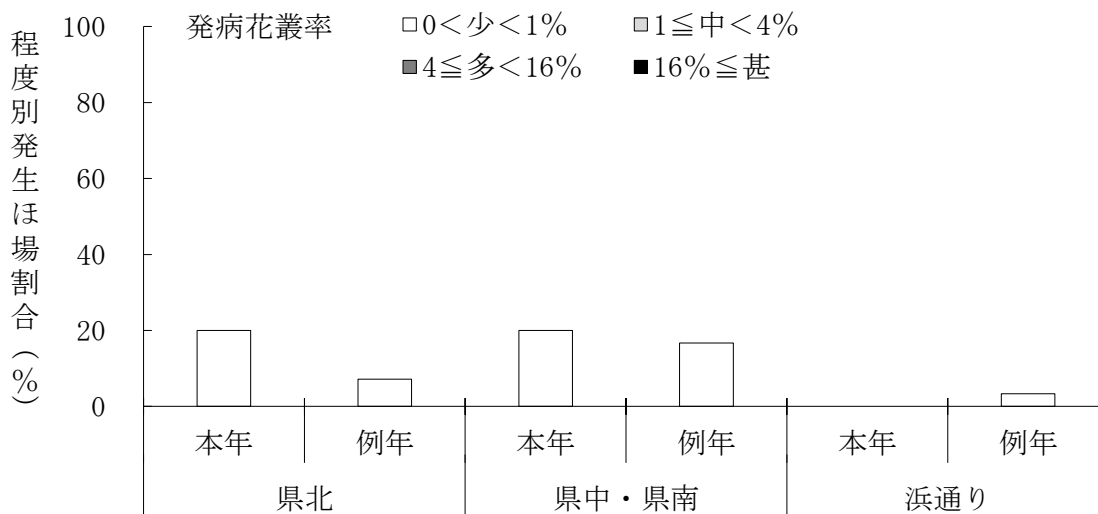


図2 ナシ黒星病（花そう基部病斑）の発生状況（令和6年4月）

2 ハダニ類

越冬量調査（令和5年12月）において、越冬卵が確認されたほ場の割合は平年並でした（図3）。越冬卵密度の高い園地では、発生密度に注意し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を散布しましょう。

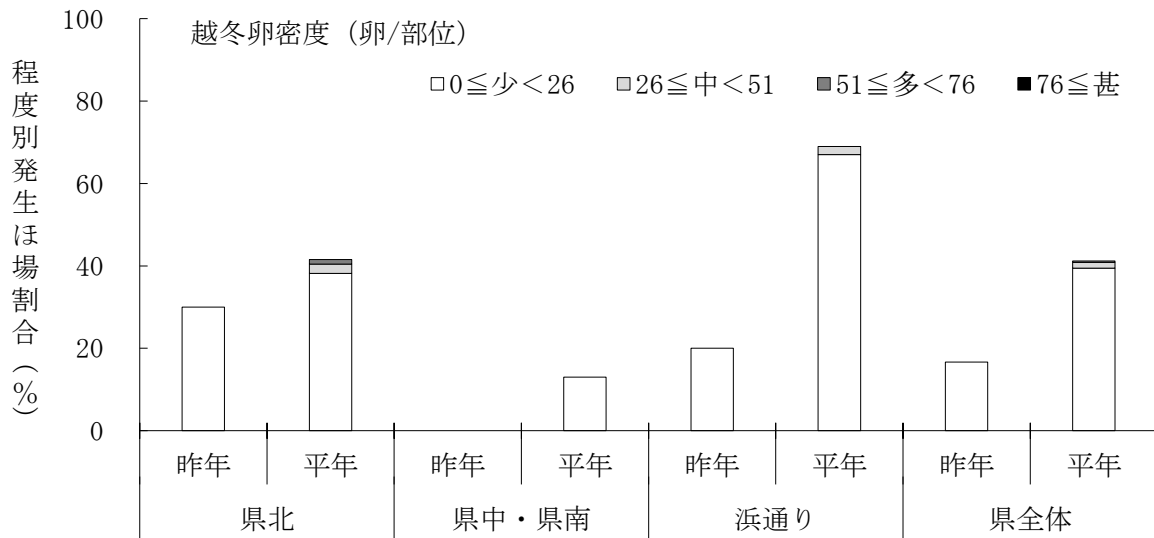


図3 ハダニ類（越冬卵）の発生状況（令和5年12月）

3 ハマキムシ類

越冬世代幼虫の花そう被害は、確認されませんでした。